

問5 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたのご意見に近いものはどれですか。

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、<反対>は 48.2%となり、<反対>が<賛成>を 28.8 ポイント上回っている。

前回調査も<賛成>より<反対>の割合が高く、その傾向に変化はないが、前回調査と比べて<賛成>は 18.0 ポイント減少している。なお、<反対>の割合は大きな変化はみられない。

前回調査のみにあった選択肢、「わからない」は 9.5%であり、今回調査のみの選択肢、「どちらともいえない」は 24.7%を占めている。

※<反対>=「反対」+「どちらかといえば反対」 <賛成>=「賛成」+「どちらかといえば賛成」

図 6-1-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方に対する意見 (n=1,083)

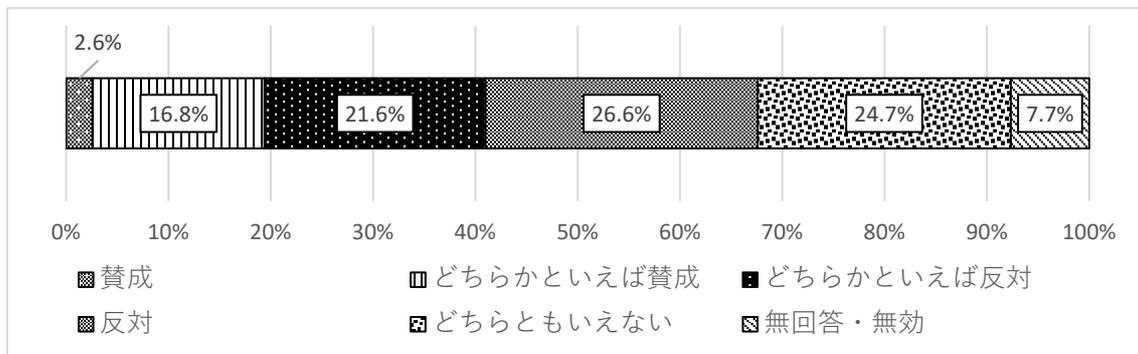
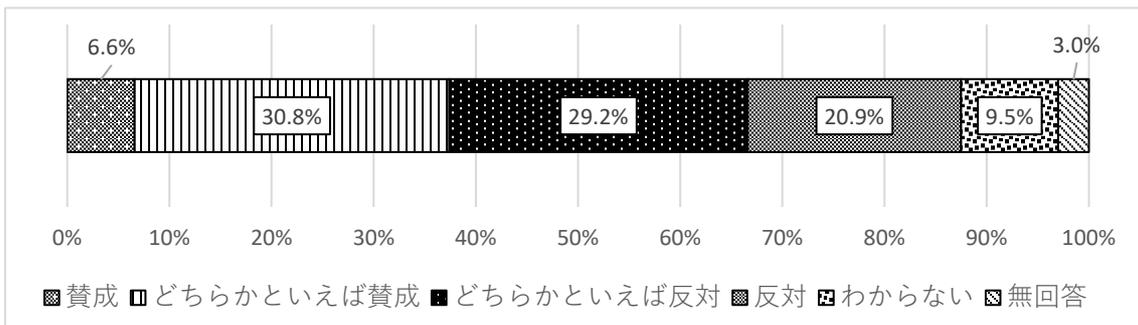


図 6-1-2 【前回調査】「男は仕事、女は家庭」という考え方に対する意見 (n=891)



性別

性別で詳細にみると、<賛成>は、女性で 15.5%、男性で 24.9%となり、男性が女性を 9.4 ポイント上回っている。

前回調査と比較すると、<賛成>は女性より男性の方が多い傾向に変化はなかったが、男女共に<賛成>の割合は減少している。なお、<反対>の割合は大きな変化はみられない。

前回調査のみにあった選択肢、「わからない」は男女ともに 10.0%未満であり、今回調査のみの

選択肢、「どちらともいえない」は男女ともに 20.0%を超える結果となっている。

図 6-2-1 【性別】「男は仕事、女は家庭」という考え方に
対する意見 (女性 n=628, 男性 n=454)

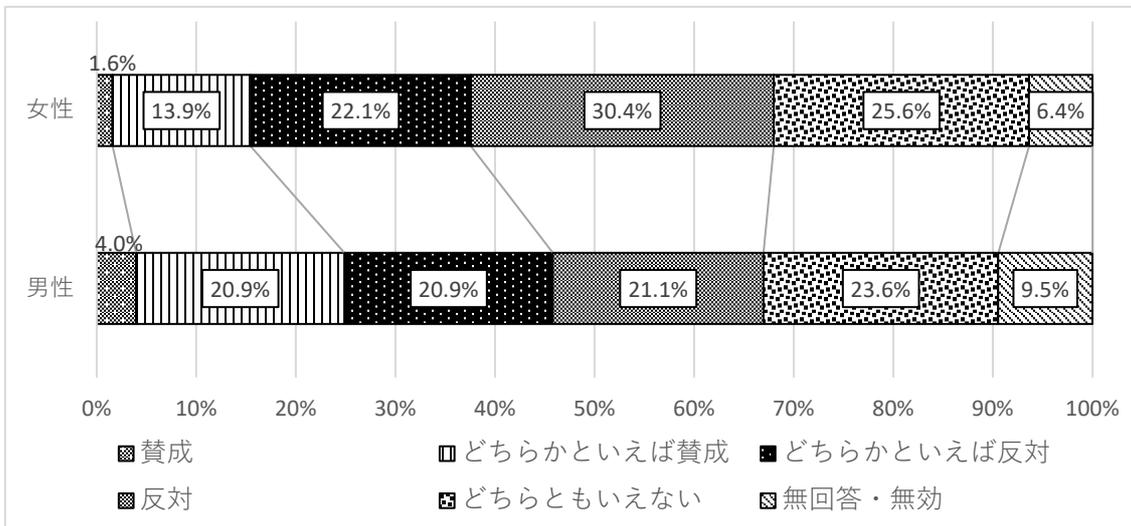
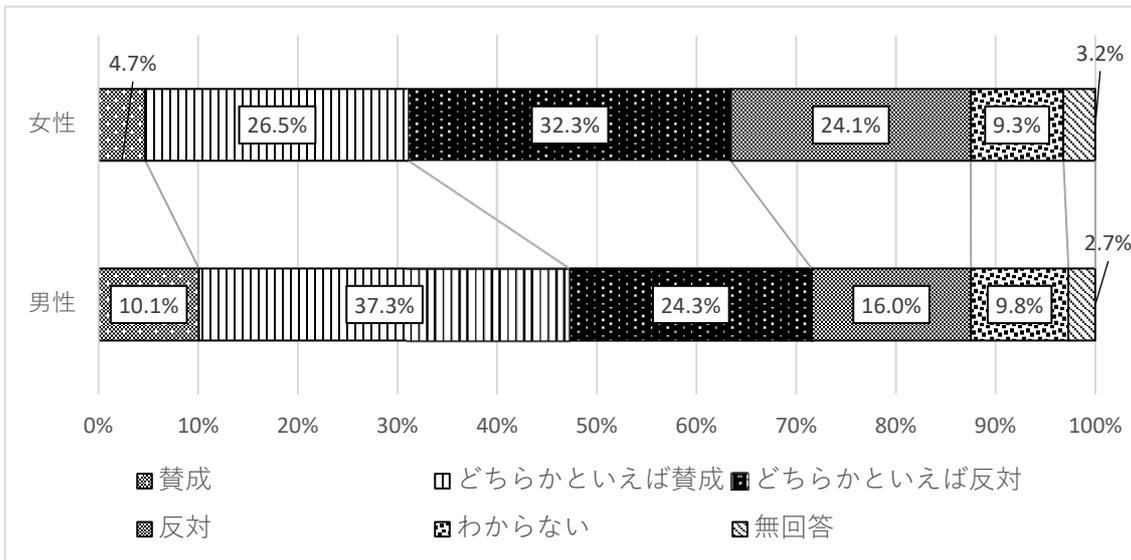


図 6-2-2 【前回調査/性別】「男は仕事、女は家庭」という考え方に
対する意見 (女性 n=536, 男性 n=338)



年齢別

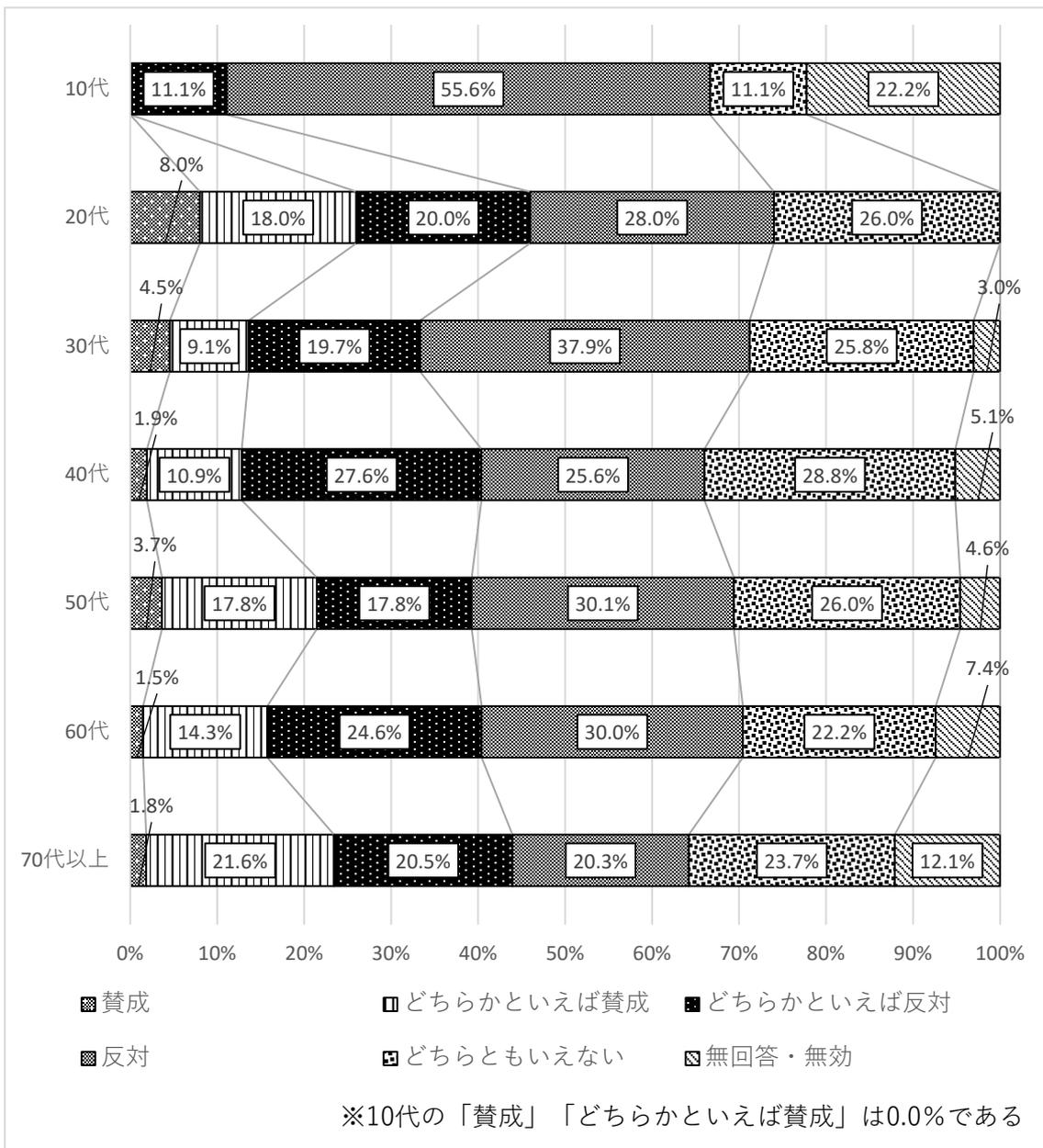
年齢別で詳細にみると、全ての年齢層で＜反対＞が＜賛成＞を上回っている。＜賛成＞と＜反対＞の差が最も大きかったのは「10代」で、それぞれ0.0%、66.7%となり、差は66.7%となっている。

また、「20代」では＜賛成＞が26.0%となっており、他年齢に比べて最も多くなっている。

前回調査では、＜賛成＞が＜反対＞を上回っているのは「65歳以上」のみであったが、今回調査では全ての年齢層で＜反対＞が多い結果となっている。

図 6-3 【年齢別】「男は仕事、女は家庭」という考え方に対する意見

(10代 n=9, 20代 n=50, 30代 n=66, 40代 n=156, 50代 n=219, 60代 n=203, 70代以上 n=380)



就業状況別

就業状況によって割合が最も高い項目に違いがみられる。

「個人経営の事業を営んでいる自営業主または家族従業員」は「どちらかといえば反対」の割合が他の項目より高い。「会社、団体、官公庁等に勤務している」及び「学生」は「反対」の割合が高い結果となっている。

「勤務・就労していない」人は「どちらともいえない」を多く回答している。

表 1-1 【就業状況別】「男は仕事、女は家庭」という考え方に対する意見

[上段:実数、下段:%]

	賛成	とど 賛 成 い ち え ら ば か	とど 反 対 い ち え ら ば か	反 対	も ど い ち え ら な と	無 効 無 回 答	総 計
個人経営の事業を営んでいる自 営業主または家族従業員	1	13	18	12	9	10	63
	1.6%	20.6%	28.6%	19.0%	14.3%	15.9%	100.0%
会社、団体、官公庁等に勤務し ている	12	74	117	161	130	26	520
	2.3%	14.2%	22.5%	31.0%	25.0%	5.0%	100.0%
勤務・就労していない	11	75	79	78	95	34	372
	3.0%	20.2%	21.2%	21.0%	25.5%	9.1%	100.0%
学生	3	4	5	13	7	2	34
	8.8%	11.8%	14.7%	38.2%	20.6%	5.9%	100.0%
その他	1	14	12	22	24	9	82
	1.2%	17.1%	14.6%	26.8%	29.3%	11.0%	100.0%
無回答・無効	0	2	3	2	3	2	12
	0.0%	16.7%	25.0%	16.7%	25.0%	16.7%	100.0%
総計	28	182	234	288	268	83	1083
	2.6%	16.8%	21.6%	26.6%	24.7%	7.7%	100.0%

※割合が最も高い項目に着色

雇用形態別

問 3 で「会社、団体、官公庁等に勤務している」と回答した人の中で、さらに雇用形態別に集計すると、雇用形態によって最も割合が高い項目に違いがみられる。

「正社員」「契約社員」「経営者、役員、監査役」の人は「反対」の割合が高い。

「派遣社員」や「日雇労働者」は「どちらかといえば反対」の割合が高い結果となっている。「アルバイト・パート」の人は「どちらともいえない」が最も高い。

表 1-2 【雇用形態別】「男は仕事、女は家庭」という考え方に対する意見

[上段:実数、下段:%]

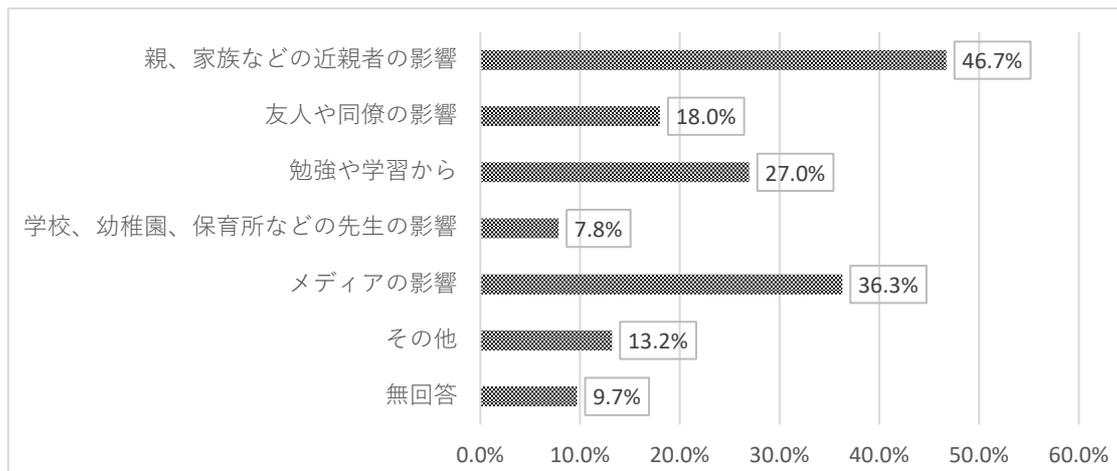
	賛成	とど 賛 成 え ら ば か	とど 反 対 え ら ば か	反 対	も ど ち ら か と い え な い	無 効 無 回 答	総 計
正社員	5	36	59	89	76	10	275
	1.8%	13.1%	21.5%	32.4%	27.6%	3.6%	100.0%
契約社員	1	3	5	13	1	2	25
	4.0%	12.0%	20.0%	52.0%	4.0%	8.0%	100.0%
派遣社員	1	1	6	2	2	3	15
	6.7%	6.7%	40.0%	13.3%	13.3%	20.0%	100.0%
アルバイト・パート	3	25	36	42	45	5	156
	1.9%	16.0%	23.1%	26.9%	28.8%	3.2%	100.0%
日雇労働者	0	0	1	0	0	0	1
	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
経営者、役員、監査役	1	5	7	8	4	3	28
	3.6%	17.9%	25.0%	28.6%	14.3%	10.7%	100.0%
その他	1	3	3	5	2	3	17
	5.9%	17.6%	17.6%	29.4%	11.8%	17.6%	100.0%
無回答・無効	0	1	0	2	0	0	3
	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
総計	12	74	117	161	130	26	520
	2.3%	14.2%	22.5%	31.0%	25.0%	5.0%	100.0%

※割合が最も高い項目に着色

問6 問5の回答について、それはどこで学んだり、教えられましたか。(あてはまるものすべてに○)

「男は仕事、女は家庭」という考え方に対する意見について、「親、家族などの近親者の影響」が最も多く、46.7%を占めている。次いで、「メディア(本、雑誌、テレビ、インターネットなど)の影響」が36.3%、「勉強や学習から」が27.0%となっている。

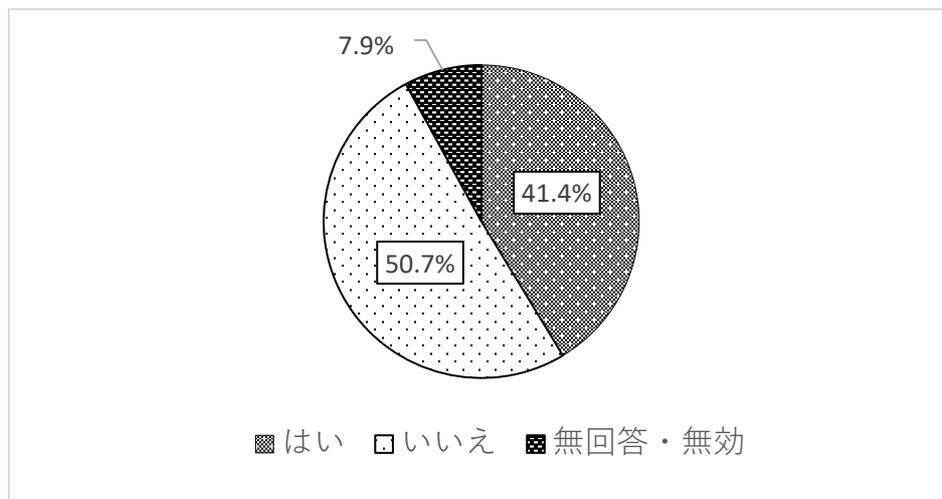
図7 問5の回答について、どこで学んだり教えられたか(n=1,083)



問7 あなたは、ジェンダー問題や男女共同参画がどのようなものなのか学んだり、教えられたりしたことがありますか。

ジェンダー問題や男女共同参画がどのようなものなのか学んだり、教えられたりしたことがあるかどうか尋ねると、「はい」と答えた人が41.4%、「いいえ」と答えた人が50.7%となっている。

図8-1 ジェンダー問題や男女共同参画を学んだり教えられたりした
機会の有無 (n=1,083)



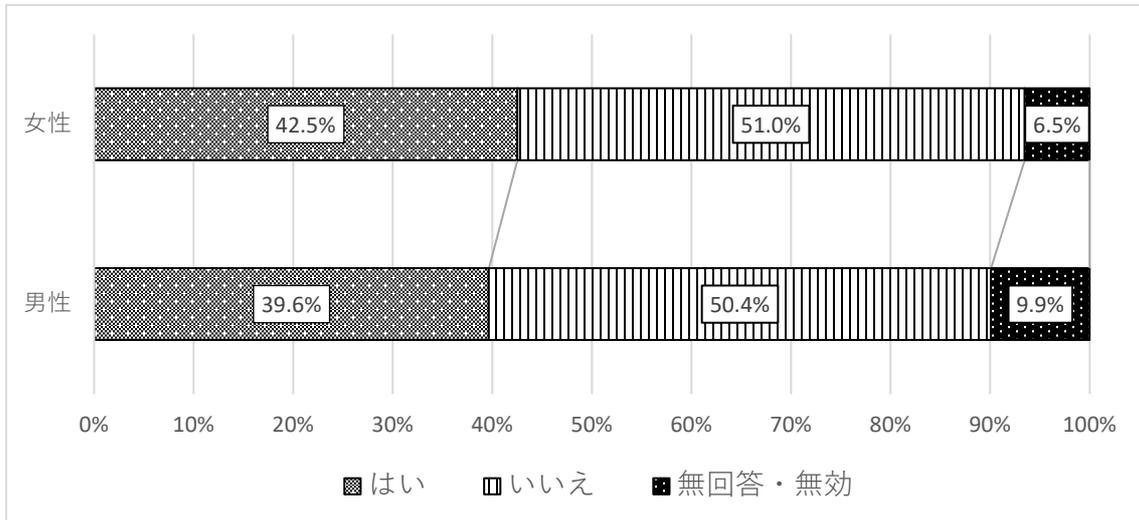
性別

性別によって割合に大きな差はみられない。ジェンダー問題や男女共同参画がどのようなものなのか学んだり、教えられたりしたことがあるかどうかについて、男女共に「いいえ」と答えた人が半数以上を占める結果となっている。

図 8-2 【性別】ジェンダー問題や男女共同参画を学んだり

教えられたりした機会の有無

(女性 n=628, 男性 n=454)



年齢別

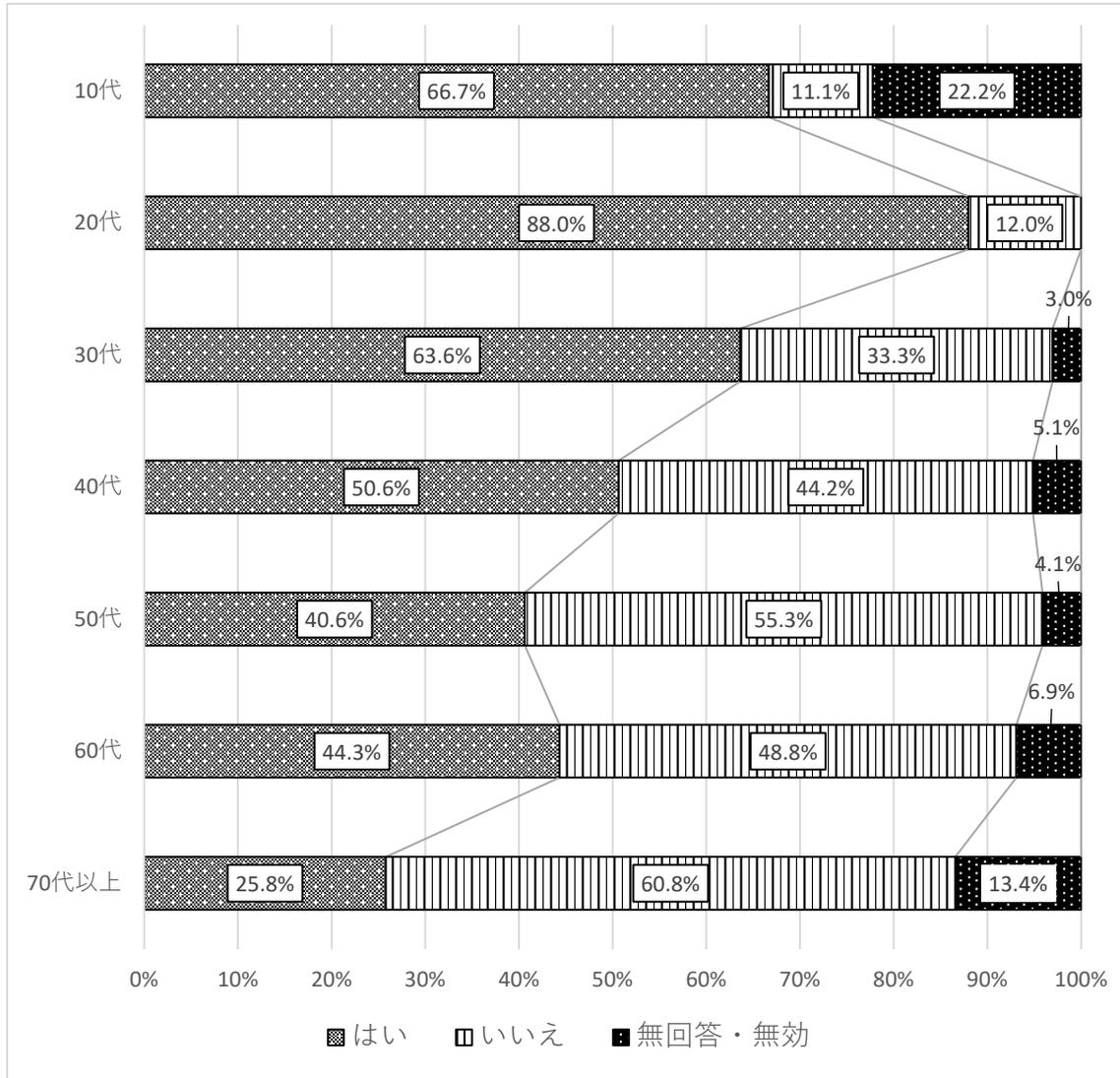
年齢別にみても、「はい」と答えた割合が「いいえ」と答えた割合より多かったのは、「10代」「20代」「30代」「40代」となっている。一方、「50代」「60代」「70代以上」では「いいえ」の割合の方が多く結果となっている。特に、「70代以上」は「いいえ」と答えた人が60.8%となり、最も「いいえ」の割合が多い。

ジェンダー問題や男女共同参画がどのようなものなのか学んだり、教えられたりしたことがあるかどうかについては、若年層ではそういった経験を有している割合が多く、年齢が上がるとその割合が少なくなる傾向がみられる。

図 8-3 【年齢別】ジェンダー問題や男女共同参画について

学んだり教えられたりした機会の有無

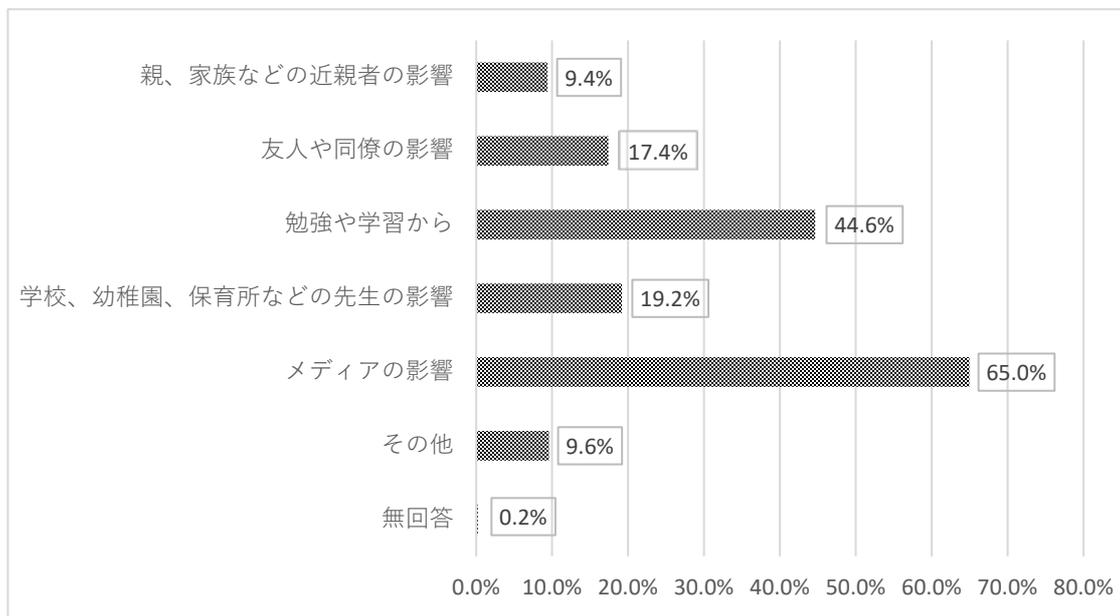
(10代 n=9, 20代 n=50, 30代 n=66, 40代 n=156,
50代 n=219, 60代 n=203, 70代以上 n=380)



問 8 問 7 で、「1)はい」を選んだ方にお聞きします。それはどこで、学んだり、教えられましたか。
(あてはまるものすべてに○)

ジェンダー問題や男女共同参画について、どこで学んだり、教えられたりしたかを問うと、最も多かった項目は「メディア(本、雑誌、テレビ、インターネットなど)の影響」で 65.0%となっている。次いで、「勉強や学習から」が 44.6%、「学校、幼稚園、保育所などの先生の影響(習いごとなどの先生も含まれます)」が 19.2%となっている。

図 9 ジェンダー問題や男女共同参画について
どこで学んだり、教えられたりしたか(n=448)



問 9 あなたは、仕事もしくは家庭生活において、性別にとられない暮らし方をしていると思いますか。

性別にとられない暮らし方をしているか尋ねると、46.1%の人が「特に意識したことがない」と回答している。「している」と答えた人は 20.3%、「していない」と答えた人は 26.0%となっている。

図 10 性別にとられない暮らし方をしているか (n=1,083)

